



## 現場の「伝えにくい」を動画で解消。 創業112年の古郡建設様が挑む 「自分ゴト化」する安全教育

### 課題

- ・年度により安全成績にバラつきがあり、平準化が急務だった
- ・文字や口頭の説明では、労働災害防止の急所が伝わりにくい
- ・市販のDVD教材では、自社の事故事例と適合しなかった

### 期待したい効果

- ・動画により、短時間かつ正確に安全のポイントを伝達できる
- ・自社の現場を再現した動画で「自分ゴト」化しやすい
- ・動画制作が未経験者であっても、質の高い教材が簡単に作成できる



代表取締役社長 古郡様

### 安全成績の平準化が課題だった

#### ー「miniつく動画」導入に至った経緯を教えてください。

古郡様: 当社は、主に埼玉県全域で事業を展開している建設会社で、今年で112周年を迎えます。土木事業から始まった会社ですが、現在は建築事業やリニューアル工事といった土木以外の業態が多くなっています。

権田様: 私は安全管理を担当していますが、自社の安全成績が安定しないということが課題でした。安全成績とは、現場での事故や怪我といった労働災害の発生頻度や、安全対策の実施状況を数値化・評価した指標ですが、年度によってばらつきがありました。過去には市販の安全DVDを購入する機会もありましたが、弊社の労働災害事例と適合していませんでした。そのような折、miniつく動画の話を知り、自社の災害事例を元に動画を作れば、言葉だけでは伝わりづらい内容も印象に残りやすくなり、過去の教訓を「自分ゴト」化して学ぶのに有効だと考えました。

#### ー「miniつく動画」導入の流れを教えてください。

権田様: 元々東京海上日動火災保険とお付き合いがあったこともあり、miniつく動画についてはトップダウンで話をいただきました。東京海上ディーアールから詳しく説明していただき、社員に過去の事例やヒヤリハットを共有するのに大変有用だと感じたこと、東京海上グループへの信頼感が決め手となり、導入を決断しました。スピード感を持って導入し、2025年7月より動画制作を開始しています。

### 東京海上ディーアールの丁寧なサポートにより、未経験でも動画制作を即座に習得

ー実際の撮影や動画作成について、苦労した点やエピソードを教えてください。

権田様: 「グラインダー作業」「刈払機の取り扱い」「ボーリングマシンの取り扱い」といった危険を伴う作業について、「社内の過去災害事例」と「正しい作業」を社員や協力会社の作業員にわかりやすく伝えることが命題でしたが、自分たちで一回撮影すると気になる箇所が発生し、再度撮り直しとなることがよくありました。また、現場の作業員も、動画を制作することに対してあまりピンと来てなかったようで戸惑うこともあったようです。しかし、今では「次はいつ作るんですか?」「どんな動画を作るんですか?」といった声が現場から上がるようになりました。より良いものを作りたいという思いから、東京海上ディーアールにアドバイスを受けながら、意見を出し合って動画を作っています。

高橋様: 私は普段自身のスマートフォンでも動画を撮ることは少ないので、動画を撮る行為そのものに不安を抱えていました。そこで、東京海上ディーアールに現場へ同行していただき、撮影している様子を私が横で拝見し、やり方を真似て撮ることにしました。東京海上ディーアールは動画の撮影経験が豊富であり且つ説明が上手で、現場の作業員にどう動くかをすればよい動画が撮れるのかを分かりやすく説明してくれました。私もそれを参考に、作業員への上手な伝え方を学びました。



安全管理課 課長代理 権田様



安全管理課 高橋様

動画の編集についても未経験であり、「私にできるのだろうか」と心配な気持ちもありましたが、実際にやってみると本当に簡単でした。動画のテロップは、社員や協力会社の作業員にとって分かりやすい文章になっているかを常に留意しています。miniつく動画はテンプレートも充実しており、自分で文章を作って違和感を覚えた箇所は、専門家である東京海上ディーアールの担当者に添削いただきながら作成しています。丁寧なサポートに大変感謝しております。

操作にも慣れてきた現在では、編集は1時間程度で完了します。撮影時間は1つのコンテンツで20～30分程となり、1日に3つのコンテンツを撮影することもあります。現場への訪問から撮影を通し帰社まで約2時間以内で終了します。特別な機材は不要であり、専門家の添削を受けながら誰でもプロ級の教育動画が作れるので安心です。

### 一現場での「miniつく動画」の活用方法について教えてください。

高橋様：社内の労働災害事例を社員や協力会社の作業員に共有して注意喚起するだけでなく、社内の安全教育の資料としても活用しています。建設現場などでは、月に1回4時間以上の安全教育を行うことが義務付けられています。しかし、「安全教育をしたいが適切な題材がなくて困っている」という話を業界でよく聞きますので、miniつく動画は大変有効だと感じています。

現在は、社員の約7割にminiつく動画の閲覧IDを配布していますが、未配布の社員から「私も見たい」という要望も来ており、配布対象を少しずつ拡大しているところです。

## 「miniつく動画」により「労働災害ゼロ」の継続に貢献

### 一「miniつく動画」の導入効果はいかがでしたか。

権田様：miniつく動画を導入してまだ1年経過しておりませんが、現場での評判は上々です。今年度の安全成績は、休業4日以上労働災害ゼロを継続中です。当社では現在「無事故無違反大作戦」と名づけ、労働災害を起こさないために現場での整理整頓の重要性を周知するキャンペーンを行っています。miniつく動画は現場の作業員の意識を高めることができ、労働災害ゼロの継続にも貢献していると評価しています。

古郡様：動画の教材であったことが受け入れられたポイントの一つではないでしょうか。最近では、さまざまな分野で動画教材が普及しています。特に若い世代に対しては動画は非常に有効なツールだと感じています。

### 一今後の展望を教えてください。

権田様：これまでに作成した動画は過去の事例にフォーカスしていますが、今起きているヒヤリハットを含めた災害事例を活用できたらと考えています。例えば、転倒に関するヒヤリハットの統計を世代別に取り替えてみると、予想以上に若年層のヒヤリハットが多いことがわかりました。危険感受性や現場の整理整頓に課題があるのではと考えられます。そういった社内で蓄積されたデータから得られる知見もminiつく動画で提供していきたいですね。

古郡様：建設業に対して、「危険を伴う仕事」というイメージをお持ちの方がまだまだ多いのが実情です。それは、建設業界に就職を検討している学生よりも、その親御様の世代に色濃く残っていると感じています。人手不足が叫ばれていますが、建設業界では顕著です。ITを活用した高度な安全管理体制をアピールすることは、若手人材だけでなく、親御様の安心感にも繋がります。

建設業界は安全な職場になっていることを世の中に伝え、建設業が就職先として多くの人に選ばれるようになってほしいと考えています。そのためにもminiつく動画を活用して、労働災害ゼロの継続を目指してまいります。



## 東京海上ディーアール担当者より

古郡建設様は、創業100年以上の歴史をお持ちでありながら、SDGsやDXにいち早く取り組まれる先駆的な企業です。充実した教育制度をはじめ、社員を大切にされ、建設業界の将来についても真摯に考えておられます。

当初、動画制作に不安を感じていた現場の皆様が、今では自発的に「次は何を作ろうか」と議論される姿に、伴走支援の意義を強く感じております。今後も、業界全体の「労働災害ゼロ」の実現に向け、全力でサポートしてまいります。

### <導入企業様のご紹介> ※2025年4月現在

会社名：古郡建設株式会社

URL：<https://www.furugori.co.jp/>

業種：総合建設業

事業内容：土木工事・建築工事・舗装工事・設備工事

住宅・リフォーム・リニューアル・建築事業 ほか

従業員数：社員/125名 現業職員/10名

お話を伺った方：

代表取締役社長 古郡 栄一 様

安全管理課 課長代理 権田 孝 様

安全管理課 高橋 歩 様